

Jahresbericht 45

JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT
WESTJAPAN



年報 第45号

令和3年10月

 西日本日独協会

FUKUOKA JAPAN 2021

表紙の写真：デッサウ・バウハウス校舎

目 次

|| 挨拶 ||

ごあいさつ 岡嶋 泰一郎…………… 1

|| 寄稿 ||

アイゼナッハ 永元 康夫…………… 3

|| 報 告 ||

会員による会員のためのオンライン講義
「じゃあ小黒、ちょっと話してみろよ」 小黒 康正…………… 5

戦間期ドイツ義勇軍文学と「男らしさ」
—『志願兵シュテンボック』をめぐって— 今井 宏昌…………… 8

魂の測り方—自然科学の向こう側 福元 圭太…………… 10

マダム・ルシファーと呼ばれた女—カロリーネの生き方 武田 利勝…………… 12

18世紀ドイツのオリンピック 田口 武史…………… 14

ドイツ人のアイデンティティと「国民」の文学 須藤 秀平…………… 16

|| 会員だより ||

〈新入会員紹介〉

東雲 由実 …………… 18

〈会員より〉

高柳 英子 …………… 18

|| 事務局報告 ||

I. 2020年度会員動向 …………… 19

II. 2020年度活動報告 …………… 19

III. 2020年度協会収支決算報告、留学生基金収支決算報告および会計監査報告 …………… 21

IV. 2021年度活動計画 …………… 22

V. 2021年度協会会計収支予算 …………… 23

2021 年度役員等名簿	25
西日本日独協会会則	26
会員名簿	27
編集後記	28

●広告一覧

西部ガス	ii
藤産婦人科	2
同学社	7
シュタットマインツ	18
城島印刷株式会社	24

いつもの街に、
いつもどおりの
毎日を。

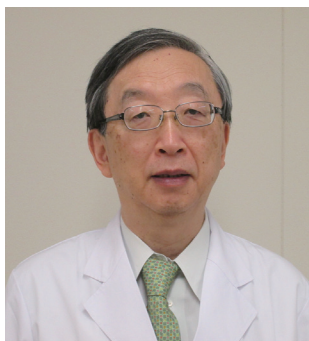
守りたい街があります。
守りたい暮らしがあります。
かけがえない毎日を大切にしたいから。
私たちは、暮らしの中のガスを
より安全に使っていただくために、
さまざまな工夫や対策を行ない、
いつも皆様のそばで
快適な暮らしを見守っています。
お客さまの安心が、
私たち西部ガスの使命です。



挨拶

ごあいさつ

西日本日独協会会長 岡嶋 泰一郎



大変長らくご無沙汰をいたしております。会員の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか？コロナ禍の終息がなかなか見えず、皆様とお会いする機会が奪われてしまい、とても寂しく思っております。

そのような中で、西日本日独協会は、いろいろな会員の方に支えていただき、できる範囲での活動を続けております。今回の年報45号の発行も、その一つです。田口先生を委員長とする、年報編集委員会の皆様のご尽力により、このような立派な年報をお届けできることを、心より嬉しく思っています。また、企画委員長の小黑先生を中心に、九州大学や福岡

大学の独文科、ドイツ語学科の皆様のご協力により、会員のためのオンライン講義が配信され、好評を博しております。ウェブ環境が整わず視聴できなかった方、時間の都合で見落とされた方のために、講演していただいた先生方より、当年報に、講義内容を文章で掲載していただきました。興味のない講演ばかりです。ぜひ、お楽しみいただきたいと思えます。また、ドイツ語教室は、堺先生に運営の労をお取りいただき、シュトロートホフ先生をはじめとする講師の先生方のご尽力で、オンラインでの授業が続いております。協会の事務局業務は、福元先生、喜多村さんにより、滞りなく運営されています。協議すべきことが生じた場合には、事務局より、会長、副会長、関係役員へメールが送られ、全員で、検討、決定しています。全国日独協会連合会とも密な連絡を取っていただいております。今回、駐日ドイツ大使が交代するお知らせなどをいただきました。

見渡せば、コロナ禍、自然災害、不安定な世相、と暗いニュースばかりが多いこの頃で、気持ちも沈みがちになります。ひとつ、気分を変えて、心配していたにもかかわらず、その心配が現実にならなかったお話をしましょう。今から35年ほど前、私のドイツ留学中（西ドイツのフライブルク大学）のお話です。チューリヒ在住の友人から、イタリア人ピアニスト、ベネディッティ・ミケランジェリがチューリヒのトーンハレで演奏するので、聴きに來られるならチケットを取りますよ、とのお知らせをもらいました。世界的な巨匠でありながら、コンサートを開くのは稀で、しかも突然キャンセルする事でも有名。チューリヒには過去に5、6回ほど来たものの、完全に演奏したのは1回だけとのことでした。それでも「幻のピアニスト」の実演が少しでも聴ければと、友人に頼んで、チケットを取ってもらいました（友人は、チケットを入手するため、朝早くから、並んでくれました）。演奏会当夜、会場のトーンハレは満席でした。私と家内、それに友人夫妻は、はたしてミケランジェリが、最後まで演奏してくれるのかどうか、不安な心を抱きながら着席していました。その心配をよそに、ミケランジェリはステージに現れ、美しい音色を奏で始めました。巨

匠のすばらしい演奏が続いているさなか、突然ジー、ジーという、時計の発する音らしき雑音が、会場のどこかから聞こえてきました。私は凍りつきました。この音はきっとミケランジェリの耳に届いていることだろう、あ～、これで彼は気分を害して帰ってしまうのではないかと不安でいっぱいになりました。しかし、幸いなことに、その心配に反して、演奏は止むことなく続きました。ところが、それもつかの間、今度は、私の2、3列前の席で、人々がざわつき始めたのです。どうも、聴衆のひとり、高齢の女性が倒れたようです。会場係の人が来ると、その列の端っこに座っていた聴衆の男性が、「連れ出せ！」と、冷たく、威圧的な口調で命じたのです。意識のない哀れな老婆は会場係の人たちによって、外に運び出されました。誰もが彼女は救急車で運ばれ、多分死んでしまったに違いないと思いました。命令した威圧的な男性は、ちゃっかり、真ん中の聴きやすいおばあさんの席を乗っ取って座ってしまいました。この騒ぎにもかかわらず、ミケランジェリは美しいドビュッシーを奏で続けました。演奏に没頭し、騒ぎには気づいていない様子でした。友人は、「奇跡ですね」と唸りました。ところが、奇跡は、それだけではありませんでした。1部が終わり、休息时间に入った時です。死んだと思ったお婆さんが、ピンピンして戻ってきたのです。皆、目を疑いました。そして、自分の席に座っている男性に向かって、毅然と一喝しました。「そこは私の席だよ。どきなさい!」。その迫力におされ、男性はすごすごと退散しました。この夜、ミケランジェリは最後まで弾き通し、お婆さんがその素適な演奏を楽しんだのは言うまでもありません。私は心の中で、おばあさん、あっぱれ!と喝采し、実にスカッとした気持ちで、残りの演奏を楽しんだのです。こんなことなら、ミケランジェリが怒って帰るのではないかと心配ばかりして、音楽に集中できなかった前半がもったいなかったと思い、自分の心配性を怨みました。でも、あのおばあさんの迫力、毅然とした態度を思い出すと、今でも元気が出て、明るい気持ちになるのです。

現在のような暗澹たる状況の中では、起こっていることを、自分に与えられたタスクであると前向きに捉え、一つ一つ取り組んでいくことが大切のように思います。人生、一瞬先は闇、いえ、光明であるかもしれませんから。

皆様のご健康をお祈りするとともに、お会いできる日を、心待ちにしております。

藤 産婦人科

Toh Maternity & Women's Clinic

◎診療時間 月・火・水・金/9:00~12:30 14:00~18:00
木・土/9:00~12:30
◎休診日 日・祝日

〒811-2417 篠栗町中央4-15-12
TEL 092-947-0358 FAX 092-947-1058

アイゼナッハ

永元 康夫

2009年6月ヨーロッパ旅行に出かけた。プラハ2泊→ドイツ・ザクセン州のラーテン3泊→ベルリン2泊→未定5泊の、汽車とバスを乗り継ぎ4名で廻る気楽な旅である。

ベルリンに2泊した翌朝、ベルリン中央駅からフランクフルト行きの急行に乗った。6人掛けのコンパートメントは、わたしたち4名と中年の女性2名(姉妹)で満席となった。話のきっかけをつかむため、わたしが質問した。

「ドレスデンに行ったことがありますか」
「ヤーヤー」

「ドレスデンの旧市街にフラウエン教会がありますが、その前の広場にマルチン・ルター像が建っていますね。ルターはこの教会で働いていたのですか」
「働いていましたよ」

これをきっかけに会話が弾んだ。わたしの友人たちは外国語が話せないので、わたしが内容を説明してゆく。彼女の質問は、どこから来たのか。どこを旅しているのか。ヨーロッパの滞在日数は、この後の予定は、その他である。わたしの質問は、どこに住んでいるのか、ベルリンにはよく行くのか、日本の東京、広島、長崎を知っているのか、その他である。

彼女が行く先を訊ねたとき、まだきめてない、と答えると、彼女はしきりにアイゼナッハを勧めてくれた。この時、彼女の真意が分からなかった。この程度の会話は初級会話である。わたしは、ドイツ語を話したいとの願いからドイツ語会話の個人レッスンを2年間受けていた。わたしの師は、産業医科大学のドイツ語教室の助教授をしておられたエルヴィン・ニーデ

ラー先生である。教科書はわたしの要望で「Themen aktuell」を使用していた。この教科書の「Themen 1, Lektion 10/ 2 Die deutschsprachigen Länder」という頁にドイツの州と州都がのっているが、なかなか覚えられない。彼女が、私たちはデンマークと国境を接する州に住んでいます、と言った時、私はおぼろげな記憶をたどり、Land S-Holsteinと言うと彼女はSchleswig-Holsteinと訂正してくれた。州都は確かKehlですかということ、Kielと訂正してくれた。Holsteinは乳牛の名前、KehlはドイツのOffenburgからフランスのストラスブールへ向かったおり、Kehlで汽車からバスに乗り換えた地名であるので覚えていた。

わたしは、ドイツの再統一(Wiedervereinigung)に興味を持っていたので、「Themen 2, Lektion 8 / 3, Als es Deutschland zweimal gab」(104~105頁)と「Lektion 8/ 4, Damals Am 9. November 1989 öffnete die DDR ihre Grenzen」(106~107頁)に授業時間をかけ、さらにメディアで情報を集め、Lektion 8/ 3の2頁は暗記していた。

わたしは、少し上級の会話をしてみたかったので、ドイツ再統一の知識を披露し質問した。

「再統一後、ドイツはどのように変化しましたか」

「旧東ドイツの人たちはあまり仕事をせず、得をしている。年金は、旧東ドイツでは少なかったが、統一後に増えたのだから」

突然、彼女は話題を変えた。

「皇太子妃の雅子さんは、病気だそうですね。心身症だそうですね。子供の愛子さんは女性だ

から、お世継ぎが大変だそうですね」

驚いたわたしは「そんなこと、どうして知っているんですか」と質問すると

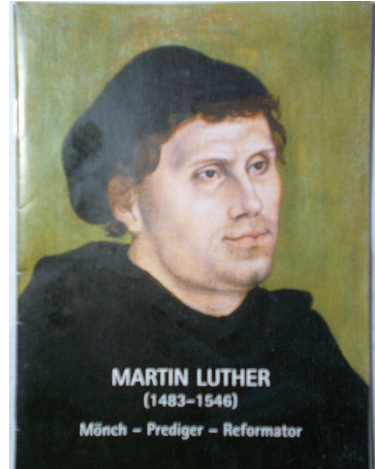
「こちらの新聞には、けっこう載っていますよ」との返答だった。

写真を数枚撮った。彼女は住所を書いた紙をひろげ、写真に撮るよう催促した。そして、この住所宛てに写真を送って欲しいと言った。彼女たちはアイゼナッハの手前で下車したが、別れ際、写真を必ず送って欲しいと念を押した。

午後2時すぎ、アイゼナッハ駅に着いた。ベルリンから2時間半の旅である。正面の道を真っすぐ進み、ニコライ門を通ると市庁舎前の広場に着く。ここのインフォメーションで、アイゼナッハ紹介のパンフレット（日本語版と3か国語版）を貰い、料金の安いペンションを紹介してもらった。ペンションにリュックを置き、再び、町の中心のこの広場に戻った。日本語のアイゼナッハ紹介のパンフレットをみながら、付近の建物を観て回った。バッハ記念館とバッハ像、ルターハウス、4つの教会である。

翌日、ヴァルトブルグ城を見学した。7つの間があったが、わたしの興味を惹いたのは、〈歌の間〉と〈ルターの部屋〉である。ヴァルトブルグ城の日本語のパンフレットによると、前者では歌合戦なる催し物が開催され、この歌合戦はリヒャルト・ワーグナーのロマンオペラ『タンホイザー』に導入されることにより世界的な名声を獲得した、とある。後者は、宗教改革の弾圧から逃れたマルチン・ルターが10カ月暮らした部屋であり、そこでルターは原文のギリシャ語から誰にでもわかるドイツ語に翻訳し、それをまとめて神学上宗教改革の聖書としたのである、とある。

アイゼナッハに2泊し、ついでカルフに3泊しフランクフルト空港から帰国した。帰国後直



ぐに、車中で楽しい会話を交わしたFrau Ristowに写真を送った。数週間後、彼女から封書が届いた。オーストリアの滞在先、ザルツカンマグートのヴォルフガング湖から送られてきたものだ。礼状に加え3つの書類が入っていた。23頁に及ぶマルチン・ルターの生涯を記した小冊子（上図）、Lutherroseの写真（下図）、その説明文であった。礼状に、このLutherroseはわれわれクリスチャンにとってはとても大事なシンボルと記されていた。

彼女がしきりにアイゼナッハを勧めてくれた真意が分かった。

（ながもと やすお 会員、内科医）

会員による会員のためのオンライン講義

「じゃあ小黑、ちょっと話してみろよ」

小黒 康正

小説家は「洞窟の語り手の末裔」、そう村上春樹は言う。2019年10月11日に行われたイタリアの文学賞グリーンザーネ賞授賞式の際に行われた受賞講演「洞窟の中の小さなかがり火」においてだ。村上の言葉は、いわば文学そのものの核心をつく。今、世界では、戦火から逃れ、自然災害から逃れて、難民として、避難民として、生まれ育った土地や住み慣れた土地を離れた人々の数が増え続けている。それだけに、かがり火の前で空腹や恐怖から人々を解放する物語の力を、別言すると、文学の原初の姿を、コロナ禍にいる私たち自身が問うことに大きな意味があるのではないか。2017年4月2日付の朝日新聞朝刊によれば、村上春樹は同様なことを既に述べていた。「僕の小説を書く態度は、昔の洞窟時代の語り部です。夜、たき火を囲みながら『じゃあ村上、ちょっと話してみろよ』と言われて語る。みんなワクワクして笑って泣いたりしながら聞いてくれる。僕にとって読者というのは、一緒にたき火を囲む人たちです」と。

文学の原初形態は「語り」の要素を多分にもつ。事実、文学、とりわけ西洋文学の古典的な形式であり、現代においてもその力を失っていない文学形式として、「物語の中の物語」からなる枠物語がある。考えてみれば、ホメロスの『オデュッセイア』も、ボッカチオ『デカメロン』も、チョーサー『カンタベリー物語』も、枠物語だ。勿論、イスラム圏の『千夜一夜物語』も忘れてはならない。近代ドイツ文学では、世界で最初の創作メールヒェンであるヴィーラン

ト『王子ビリピンカー物語』も、「メールヒェン」が所収されたゲーテ『ドイツ避難民閑談集』も、かつて日本でよく読まれたシュトルム『みずうみ』も、そして現代日本文学では、小川洋子『人質の朗読会』も、まさに「洞窟の語り手の末裔」の形式に他ならない。

今、世界中の誰もがコロナ禍で従来の日常生活とは極めて異なる状況に陥っている。西日本日独協会も例外ではなく、例会やクリスマス会など対面を伴うすべての行事が中止になったままだ。今、私たちはまさに「洞窟」の中にいる。それだけに、私たち自身が、対面であれ、オンラインであれ、人と人がつながる新しい物語を求めているのではないだろうか。このような思いを抱きながら、私は「会員による会員のためのオンライン講義」を企画した。但し、企画委員長としてというよりも、「洞窟の語り手の末裔」の一人として、やむに止まらない思いで企画したのである。しかも、嬉しいことに同僚たちがすぐに賛同してくれたので、西日本日独協会特別企画の第一弾は2020年の師走に行うことができた。「チーム〈ドイツ〉の最前線」というテーマのもと、九州大学で行われている授業や研究の最新成果を分かりやすくお伝えする「ドイツ文化論」を以下のとおり企画したのである。

第1回講義 12月12日(土) 17時から18時まで
題目：ゲーテの詩「漁夫」をめぐる新しい音楽観 「算術の水たまり」から「自然の泉」へ

講師：小黒康正（九州大学）

第2回講義 12月19日（土）17時から18時まで

題目：戦間期ドイツ義勇軍文学と「男らしさ」『志願兵シュテンボック』をめぐって

講師：今井宏昌（九州大学）

第3回講義 12月26日（土）17時から18時まで

題目：魂の測り方 - 自然科学の向こう側

講師：福元圭太（九州大学）

本企画は当初、以上で終了する計画であったが、2021年度に入ってもコロナ・ウイルスの感染拡大に歯止めがかからぬ中で、再企画を望む声が当方に複数寄せられたこともあって、「近現代ドイツにおける〈女性〉」というテーマのもとで、第二弾が下記のとおり行われたのである。有難いことに、いずれの講義も平均して25名前後の方々が熱心に聴いてくださった。第一弾、第二弾にご参加の方々、そして両企画に協力してくださった九州大学の同僚の方々に、この場をお借りして改めて御礼を申し上げたい。

第4回講義 4月29日（祝）17時から18時まで

題目：「水の女」の別れと出会い 名匠ペッツォルト監督の最新映画『水を抱く女』について

講師：小黒康正（九州大学）

第5回講義 5月15日（土）17時から18時まで

題目：「マダム・ルシファー」と呼ばれた女 - カロリーネ・シュレーゲルの生き方

講師：武田利勝（九州大学）

なお、当方が再登板した第4回講義は、ゴールデンウィークの頃に福岡でも上映されたドイツ映画『水を抱く女』Undine（2020年）に関する話だ。この映画に決定的な影響を与えた二つ

の散文作品、フケー『ウンディーネ』Undine（1811年）とインゲボルク・バッハマン『ウンディーネが行く』Undine geht（1961年）を紹介しながら、映画の注目点として、（1）ドイツ語の原題、（2）冒頭の別れのシーン、（3）男の名前ヨハネス、（4）もう一人の男クリストフ、（5）映画の舞台、以上の5点を挙げて説明した。

実は、講義の原稿は、昨年、東京の映画関係者から依頼を受けて映画パンフレット用に書いた拙文に基づく。依頼のきっかけは拙著『水の女 トポスへの船路』（九州大学出版会、2012年）であったので、当方の講義には九州大学出版会の方々も参加された。また、福岡大学人文学部ドイツ語科の関係者から事前にご依頼があり、田口武史先生の一年生用授業ではリアルタイムで、堺雅志先生の同授業ではZoomの録画で、多数の学生さんたちが私の話を聞いてくれたのだ。やはり、若い方々が聞いてくれると、とても嬉しい。更に、第二弾以降からは、バイエルン独日協会の方々も参加されるようになった。こちらが夕方の17時だとすると、あちらは朝の9時であろうか。私の講義録画は本会の友好団体であるベルリン独日協会とバイエルン独日協会にも送られた。本会なりに新しい交流の第一歩を踏み出したと言えよう。

こうして始まった「会員による会員のためのオンライン講義」を通じて、本会でも人と人がつながる新しい物語が模索された。つまり、西日本独日協会の内外で「一緒にたき火を囲む人たち」の数が増えたのである。こう書いた序でに、本企画のきっかけをお伝えしておこう。映画『水を抱く女』のパンフレットに関する依頼があった頃なので、2020年の師走だったと思う。私自身、コロナ禍で少々疲れていたからだろうか、何だか自分が洞窟の中でたき火を囲んでいるように思えた。否、そう思いたかっただけなのかもしれない。そして、誰かが私に言う

のだ、「じゃあ小黒、ちょっと話してみろよ」と。全てはこの声から始まった。

(おぐろ やすまさ 会員、九州大学大学院人文科学研究
院教授)



映画『水を抱く女』のドイツ語版ポスター
(出典：[https://en.wikipedia.org/wiki/Undine_\(2020_film\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Undine_(2020_film)))



アポロン 独和辞典 〔第3版〕

初学者のために徹した
最新の学習ドイツ語辞典！

根本・恒吉・吉中・成田・福元・重竹 〔共編〕
有村・新保・本田・鈴木

2色刷・B6判・1836頁・箱入り
定価 本体 4,200円 (税別)

ドイツの標準語 — その生い立ちと辞典の個性 —

根本道也 著

A5判・並製・272頁 定価 本体 2,800円 (税別)

やさしい！ドイツ語の学習辞典

根本道也 編著

2色刷・B6判・770頁・箱入り 定価 本体 2,500円 (税別)

ドイツを旅する若者へ

新・実用ドイツ単語・会話集

根本道也 編著

新書判・348頁 定価 本体 2,000円 (税別)

〒112-0005 東京都文京区水道1-10-7
Tel 03-3816-7011 Fax 03-3816-7044

同 学 社

<http://www.dogakusha.co.jp/>

戦間期ドイツ義勇軍文学と「男らしさ」

—『志願兵シュテンボック』をめぐって—

今井 宏昌

敗戦と革命を経験した第一次世界大戦直後のドイツでは、軍隊が機能不全に陥る中、様々な志願兵部隊が結成された。特に「義勇軍 Freikorps」と総称される志願兵部隊は、新生ドイツ共和国において旧軍に代わる武装権力として機能し、国内の治安維持のみならず、東部国境地域での対ポーランド国境闘争や、バルト地域における（反共）干渉戦争を展開した。そしてそのメンバー（大きく見積もって40万とされる）からは、のちのナチ高官が多数輩出されたことから、義勇軍を「ナチズムの前衛」と見る向きもある（ロバート・G・L・ウェイト『ナチズムの前衛』山下貞雄訳、新生出版、2007年）。

この義勇軍出身者の心性を、ジェンダー・セクシュアリティ研究の視座から考察したのが、戦後ドイツを代表する著述家クラウス・テーヴェライト Klaus Theweleit である。彼が1977年から78年にかけて刊行した浩瀚な2冊組の書『男たちの妄想 Männerfantasien』は、義勇軍出身者や彼らに取材した作家の手になる膨大な数の回想録や自伝的小説を、フロイト流の精神分析の視点から読み解く試みであり、当時のドイツ史研究やドイツ文学研究、そしてファシズム研究に一石を投じた問題作であった。テーヴェライトはここで、義勇軍出身者が〈兵士の男性〉としての特性、つまりは男同士のホモソーシャルな関係への傾倒と「女性に対する愛憎矛盾する攻撃性」を有しているとし、そうした形での「男らしさ」に「ファシズム」の問題を見出した（クラウス・テーヴェライト『男たちの妄想 I・II』田村和彦訳、法政大学出版局、1999-2004年）。

テーヴェライトは一見すると、義勇軍を「ナチズムの前衛」とみなす立場であるように思われる。しかし話はそう単純ではない。彼自身の解説によると、本書でいう「ファシズム」とは「歴史的ないしは政治的概念ではなく、より広範かつ根源的な、支配や暴力や破壊を生む心性（メンタリティー）」であり、それゆえ「地域と民族にかかわらず、あるいは政治体制やイデオロギーにかかわらず姿を変えて現れる現象」とされる（田村和彦「クラウス・テーヴェライト『男たちの妄想』に寄せて」『エクス』4号、2006年、138-139頁より引用）。つまり義勇軍出身者が体現する〈兵士の男性〉の問題は、何もナチズムだけでなく、現代に生きるわれわれにもつながる問題として捉えられているのである。

さて、となるとここでひとつの疑問が生じる。歴史的事実として義勇軍出身者全員がナチ党員にならなかったとすれば、〈兵士の男性〉の問題はナチに向かわなかった出身者においてどのように表出するのだろうか。今回のオンライン講義で検討したのは、まさにこの点であった。具体的な対象としては、①1919年に志願兵としてバルト地域（特に現在のラトヴィア）での反共義勇軍闘争に参加しながらも、②ドイツ亡命後の1922年から23年にかけてルール地方で炭鉱労働に従事する中で左傾化し、③ヴァイマル共和政末期（1929-1933年）にはドイツ共産党（KPD）への「転向」を果たした青年貴族、アレクサンダー・シュテンボック＝フェルモア Alexander Stenbock-Fermor に焦点をあて、彼が自らの義勇軍時代を綴った自伝的小説『志願

兵シュテンボック』(Freiwilliger Stenbock. Bericht aus dem Baltischen Befreiungskampf, Stuttgart 1929) をジェンダー・セクシュアリティ研究の視座から読み解く作業をおこなった。

ヴァイマル末期、すでに右翼陣営から左翼陣営に軸足を移しつつあったシュテンボックは、本作を通じ義勇軍における一年間の「体験 Erlebnis」を跡づけ、「経験 Erfahrung」化している。第一次世界大戦への従軍が不可能だった「戦時青少年世代 Kriegsjugendgeneration」(1900年代生まれ)に属し、またそうであるがゆえに「前線体験」を渴望していたバルトの少年貴族は、「ワイルドで荒々しい冒険」への熱狂から現地の義勇軍に志願する。象徴的なのは、前線行き前日にキャバレーで知り合ったモダンガールと一夜をともにし、戦友に恥じない〈兵士の男らしさ〉を手にするシーンである。

また戦場にてシュテンボックらの前に立ち上がるのは、「猟銃女 Flintenweiber」と呼ばれる赤軍女性兵士である。テーヴェライトによると、義勇軍文学における「猟銃女」はしばしば「娼婦」と同一視され、戦闘に勝利するや義勇軍戦士の死体を切り刻み、鼻や性器を切り取って晒し物にする「野獣のように残虐」な女性として描かれる。注目すべきは本作において、「猟銃女」が戦場に立ち、「白軍」たる義勇軍と戦わねばならない理由が、ボルシェヴィキ男性の「不甲斐なさ」に求められている点である。ここでは「両性」の混成集団である赤軍と、男性のみのホモソーシャル集団である義勇軍がシンメトリーをなしている。そしてシュテンボックらは「猟銃女」の攻撃の前に「女どもを心から出迎え

てやると決意」することで、その〈兵士の男らしさ〉を示すのである。

しかしその後の展開において、従軍前のシュテンボックが抱いた「ワイルドで荒々しい冒険」への熱狂は、彼が味わった「戦争」の恐ろしさを通じて否定される。さらに物語終盤では、その「体験」すらも「愛」をはじめとする「未体験」の前に否定される。こうした展開はドイツ亡命後の彼が新たに遭遇した様々な「体験」、とりわけ前作の主題となった「鉱夫体験」を肯定的に捉える解釈を前提としており、その意味で彼自身の義勇軍時代に対する10年越しの批判的総括とみることもできる。

ただし、そうしたシュテンボックの回顧的(自己)批判が義勇軍のもつホモソーシャル集団としての性格に向けられることはなく、また物語構造からしても、彼の〈兵士の男らしさ〉はモダンガールとの性交や「猟銃女」との戦闘を通じて強調され、さらには戦友との〈男同士の絆〉も女性たちの「排除」を通じて維持される。したがってテーヴェライトが提起した〈兵士の男性〉の問題は、本作を執筆した1920年代末のシュテンボックの中にも残存していたといえよう。

現代日本においても、左派ないしリベラルを標榜する男性が女性へのセクシュアルな暴言・暴行の加害者となるケースは後を絶たず、SNS上では「反フェミ」で結束する光景すら見られる。シュテンボックの問題は、果たして「他者」の問題として切り捨てることは可能なのだろうか。自戒を込めつつ今後も問うていきたい。

(いまいひろまさ 会員、九州大学大学院人文科学研究院講師)

魂の測り方—自然科学の向こう側

福元 圭太

今年の夏に出した本の一部をご紹介します。登場人物は3名。物理学者フェヒナー、ダーウィン進化論をドイツで広めた生物学者ヘッケル、そしてヘッケルの弟子ドリーシュです。みな最初は自然科学者でした。しかし3名ともその人生の後半、自然哲学者へと変貌します。

自然科学者は世界を数量的に把握します。ガリレイに始まる世界の数量化はデータ、エビデンスのみが重視される現在に直結しています。他方自然哲学者は自然を「思弁」します。数量に対して「質」を問題にするのです。自然とは何か。自然は神の創造物なのか。では神とは何か。自然の一部である人間とは何か。神と人間の関係は。魂や死や夢が科学的に数量化できないとすれば、その「質」はどういうものなのか。

今日はフェヒナーだけについてお話します。フェヒナー（1801–87年）は、現ポーランド領の寒村に生まれました。代々牧師の家系。16歳でライプツィヒ大学の医学生に。この町にその死までとどまります。妹の一人がかのクララ・シューマンの義母になった人（クララの父の後添え）で、フェヒナーはシューマン夫妻の親戚です。

フェヒナーは医学に興味を持たず、物理学と哲学を勉強。そのころ出会ったのが「ロマン主義的自然哲学」です。自然を根源的に哲学し、世界は包括的な有機体として把握されました。反機械主義的で、自然の「解説」は神を知ること、「神智学」であるとする傾向がありました。実証主義的・機械論的な物理学とロマン主義的な自然哲学の間で引き裂かれていたフェヒナーは、新しい学問を創造します。感覚や精神を数値化する、つまりは「魂を計測する」という「精

神物理学」です。心理的なものを物理的に計測する学問、そう、現在の「実験心理学」の創始者がフェヒナーなのです。フェヒナーは「精神、感覚、魂が変化するなら、その背後に必ず物理的な刺激量の変化がある。つまり精神と物理は表裏一体であり、あらゆる魂の背後には物理的基盤がある」と考えました。ここまでなら、フェヒナーも「すべての魂は物理的にデータ化できる」という自然科学者で終わったでしょう。しかし次の一歩が決定的でした。「精神と物理が表裏一体なら、あらゆる物理的な物には魂がある」。こうしてフェヒナーは、あらゆる物に魂を賦与する自然哲学者へと移行するのです。

フェヒナーが簡単にこの見解に達したのではありません。物理学と自然哲学の間で葛藤していたフェヒナーは今で言う鬱病を患い、4年間も暗い部屋に閉じこもってしまいます。妻の看病で奇跡的に回復したフェヒナーが最初に物の魂を見たと思ったのは、庭の花でした。フェヒナーは花が自分に笑いかけていることを「見て」しまいます。ここからフェヒナーは不思議な本を書き始めます。植物の魂の生活について、地球や惑星の魂について、鬱病発症前に書き始めていた死後の生について、等々。フェヒナーの自然哲学の基盤は物理学でした。人間には意識されない刺激があります。例えばコウモリは人間には聞こえない超音波を感知します。微弱な香りは人間の嗅覚では捉えられません。光が弱ければ見えないものもあります。物理的な刺激が弱すぎるとそもそも人はそれを感覚できないのです。しかし物理的刺激は確かに存在します。フェヒナーは人間が刺激を刺激として感じることでできる最低限のラインを「閾」と

名付けました。その閻下の刺激は人間には感じられません。たとえば植物の魂の動きはこの感覚閻の下にあるので感じられないのではないか。地球や惑星の魂もしかり。またこの閻の上意識できるとすれば、閻下に沈み込んだままの刺激は、無意識にとどまることになります。この考え方はフロイトに多大な影響を与えました。人間の魂（意識・精神・心理）だけでなく植物や天体の、いや万物の魂を包括する意識として、フェヒナーは神を要請します。また死後の魂は、エネルギー保存則に則って、消滅することはなく、より高い神の意識へと統合されるとうのです。無意識だけでなく、夢における意識状態や、死への衝動に関しても思考したフェヒナーは、フロイトの夢解釈や死への衝動である「涅槃原則」の理論に多大な影響を及ぼしました。また、グスタフ・マーラーの交響曲3番や4番には、フェヒナーの「死後の生」という考えが反映しているとも言われます。

日本では哲学者の西田幾多郎がフェヒナーを愛読。『善の研究』（1911年）を1936年に改訂した際、西田は冒頭でフェヒナーの神秘体験に触れています。また漱石もウィリアム・ジェームズ経由でフェヒナーを知り、修善寺で大吐血をして生死の境をさまよった際（1910年）、フェヒナーのことを書いています。さらに稲垣足穂は何度もフェヒナーに言及し、その「人間は三度生まれる」という考えに触れています。人間は1. 眠りの生活（母胎内）2. 眠りと覚醒の交替する生活（現世）3. 永遠の覚醒（死後）を持つ、とするのです。

特に前世紀以来、自然科学が世界を席卷しました。数量化できないものの価値が暴落したのです。それらは魂であり、夢であり、記憶や感情でした。これらはもっぱら（「役に立たない」とされる）文学や詩の領域に追いやられてきました。フェヒナーは最初、魂を物理的に計測しようとしていました。しかしそれを貫徹することは

できませんでした。計測できない質が問題であることに気づいたのです。端的に言って質を量で測ることはできないからです。

私たちはすっかり自然科学的な世界把握に慣れ、すべてをデータとして数量化する傾向にあります。やがて人間そのものまで数量化されてしまいます。これは危険な考えです。2020年3月18日にメルケル首相が行ったコロナ危機に関する演説に、このような考え方に関する反省とも取れるフレーズがあります。最後にそれを引用。コロナ患者の「統計にあるのは、単に抽象的な数字ではありません。それらは父親あるいは祖父であり、母親あるいは祖母であり、パートナーなのです。それらは人間なのです」。

（ふくもと けいた 会員、九州大学大学院言語文化研究院教授）



マダム・ルシファーと呼ばれた女—カロリーネの生き方

武田 利勝

笑うカロリーネ

ドイツ古典主義の文豪シラーによる一大長編叙事詩、『鐘の歌』。一体の巨大な鐘、その鑄造から落成までを、一人の男児の全人格的形成になぞらえて謳いあげた本作は、まさに荘厳にして雄大、1799年の発表当初からすでに人々の心を驚掴みにし、称賛の声は19世紀を通じて衰えることなく、20世紀後半に至るまで、ドイツ語圏の高校教科書には必ず載っていたほどです。

ところがこの詩の発表当時、それを朗読して大爆笑、ついには椅子から転げ落ち、腹を抱えて床をのたうち回ったという、けしからぬ連中もおりました。この連中からすれば、当の『鐘の歌』に露骨に現れるシラー流の観念、つまり「男は人生をかけて働き、女は家を守る」式の観念は、もはやそれに正面切って議論をしかける価値もないほど馬鹿馬鹿しかった、ということなのでしょう。ちなみに、このけしからぬ連中は、今ではイエーナ・ロマン派と呼ばれていて、文学史の教科書では、その中心人物としてシュレーゲル兄弟の名が挙がっていますが、しかし問題となっているこの情景に関しては、痛快きわまる大爆笑の渦の中心にいたのはカロリーネという一人の女性でした。そして近年、いわゆるロマン派の思想形成にとってこの女性の果たした役割がどれほど重要だったのか、あらためて見直されるようになってきました。

革命の渦のなかへ

カロリーネは1763年、ゲッティンゲン生まれ。父は当地の大学教授、ヨハン・ダーフィト・ミヒャエリス。ゲッティンゲン大学といえ

ば、新設ながらも当時すでにヨーロッパにおける知的ネットワークの最重要拠点の一つでした。そんな大学の有名教授の家ともなれば、国内はおろか、世界各地から著名人が訪れます。レッシング、ゲーテ、それに海の向こうからはベンジャミン・フランクリン。啓蒙時代の最先端の知と感性が、ミヒャエリス家には次々ともたらされるわけですが、そんな家庭で育ったカロリーネのこと、当時の女性としては規格外の知性と教養、それに感受性を身に付けておりました。

とはいえ時代の空気はまだまだ封建社会のそれですから、やはり彼女も善良な家庭の良き妻、良き母となるべく人並みに結婚はしましたが、不幸なことに、夫フランツ・ペーマーとの結婚生活は、彼の急死とともにわずか3年で終わります。若くして未亡人となったカロリーネは幼い一人娘アウグステとともに実家に戻り、老父が亡くなると、ふたたび娘の手をひいて、1792年春、ライン河畔の古都マインツに向かいます。そこにはゲッティンゲン時代の友人テレゼと、その夫、『世界周航期』の著者として名高いゲオルク・フォルスターがいました。ところがカロリーネがマインツに着いてみると、すでにこの夫婦は決裂寸前の別居状態。やむなく彼女はフォルスターの家に転がり込むのですが、これがその生涯の一大転機となりました。

1789年に勃発したフランス大革命は、このとき、マインツ周辺にも盛大な火の粉を舞散らせていました。1792年9月、ヴァルミー会戦で大逆転勝利を収めた革命軍は、翌月にはこの街にも迫ってきます。マインツ大司教（選帝侯）とその宮廷は慌ただしく街を離れ、新たな支配者

としてフランス軍が入城、革命熱に煽られた進歩思想家たち（ジャコバンクラブ）がそれを迎えるのですが、その中心人物の一人がフォルスターなのでした。彼らはやがて新政権を樹立、こうしてドイツ初の共和国が宣言されましたが、すでに反撃の準備を進めていたプロイセン連合軍によってたちどころに蹂躪されてしまいます。

フォルスターの家で革命の熱狂に酔いしれていたカロリーネは、1793年3月末、ついに包圍戦の始まろうとする折しも、8歳の娘を連れて脱出を図ったところを連合軍に捕われ、投獄されてしまいます。そのうえ、彼女は人知れず身籠ってもしました。相手は、マインツの街で情熱的な一夜を共にした、若いフランス将校。敵国軍人の子種を宿しているなど、絶対に知られてはなりません。実に過酷な獄中生活は3か月以上に及び、ようやく釈放された後も、祖国への裏切り者に身をおく場所はありません。革命軍に加担するようあの偉大なフォルスターを唆した悪女。これが、世間がカロリーネに与えた役割でした。道を誤った男の横には、悪い女が一人いないと絵にならないのでしょうか。「マダム・ルシファー」というイメージは、こうして作り上げられていきました。

ロマン派のミューズとして

そんな彼女に救いの手を差し伸べたのが、かつて彼女に求婚したこともある新進気鋭の文献学者、アウグスト・ヴィルヘルム・シュレーゲルでした。当時アムステルダムにいた彼は、弟フリードリヒを代理人として、妊婦とその娘の生活を支えます。まだライプツィヒ大学の学生

だった弟も喜んでその役目を引き受け、親身になって二人の世話をし、分娩にも立ちあいました。その間、カロリーネはこの多感で該博な若者に、彼女がマインツで学んだ共和制の理想について、そして男女のあるべき愛の姿について、熱く語って聞かせたのですが、このことが、後にロマン主義の理論的指導者となるフリードリヒ・シュレーゲルの思想形成にどれほど寄与したかは、小説『ルツィンデ』をはじめとする彼の主要著作群からも明らかといえましょう。

1796年、カロリーネはアウグスト・ヴィルヘルムと再婚し、イエーナに居を移します。そこで持ち前の語学力と文才を活かして夫とともに古今の文学作品の翻訳に勤しむ傍ら、夫婦との知的な会話を求めて連日のように訪れる客たちをもてなすうちに、二人の住居は若い知識人たちの社交的中心地となっていきました。この場所こそ、ロマン派と呼ばれる思想的潮流の源泉でした。そしてこの泉は、「マダム・ルシファー」として世間から蔑まれた女性がいなければ、決して湧くことはなかったでしょう。彼女はいまや、ロマン派のミューズなのでした。

さて、この後も相変わらず劇的な人生が彼女を待ち受けているのですが——もはや紙面が尽きました。彼女の後半生、また彼女がロマン派の思想形成に及ぼした影響についてご興味をお持ちになった方には、拙訳で恐縮ながら、フリードリヒ・シュレーゲル『ルツィンデ他三篇』（幻戯書房、近刊）をお手にとっていただきますよう、ご案内差し上げます。

（たけだ としかつ 会員、九州大学大学院人文科学研究准教授）

18世紀ドイツのオリンピック

田口 武史

「やっぱりこれをしてよかった。これをやらなかったら日本人は病気になる。」東京オリンピック開会式翌日に掲載された新聞記事の冒頭です。書いたのは三島由紀夫、ひとつ前の東京オリンピック開会式観覧記です。太陽と聖火と金管楽器の輝き、日本選手団の赤いブレザー、澄み切った青空—光と色彩に満ちた三島の描写を読むと、自分も1964年10月10日の国立競技場を見守っているかのような昂揚感に包まれます。(三島由紀夫「東洋と西洋を結ぶ火—開会式」、佐藤秀明編『三島由紀夫スポーツ論集』岩波文庫、2019年、18-22頁)

2021年の東京オリンピックは、あの日の晴れやかな式典とは正反対に、混乱と疑心暗鬼のなかで幕を開けました。ところがどうでしょう。閉会後の世論調査では「やってよかった」という意見が過半数を占めていたようです。数々の不祥事も猖獗を極める病魔も、暗い影を落とす問題はほぼ何も解決していないにもかかわらず。「オリンピックはこのうえもなく明快だ。(…)オリンピックがその明快さと光りの原理を高くかかげればかかげるほど、明快ならぬものの美しさも増すだろう。」そう三島が言うとおり、オリンピックの「明快さ」には、なるほど病気さえも遠ざけてしまうなにかがあるようです。オリンピックとスポーツが、これほどまでに我々をポジティブにするのはなぜでしょう。

この問いにヒントを与えてくれるのが、ロラン・バルトの神話論です。彼の言う「神話」とは人間に認識のひな型を提供するもの、対象の特殊性を捨象し、規範的な意味を与え、これを自然の理であるかのように思い込ませるものです。かかる「神話」は古代のみならず、現代

においてもなお我々の日常に見いだされます。その典型としてバルトが指摘するのが、プロレスです。「プロレスのよさは、それが過度なスペクタクル〔見世物〕であることだ。そこには古代演劇がそうであったに違いないような誇張がある。(…)影のない光が、屈折のない感動を作り上げるのだ。」(ロラン・バルト『現代社会の神話 1957』下澤和義訳、みすず書房、2005年、9頁) プロレスはあたかも古代演劇の如く、善玉悪玉の、あるいは勝利と敗北の身振りを誇張して見せるがゆえに、観客を熱狂させるというのです。

ならば筋書きも善悪もない真剣勝負のスポーツは、「神話」とは全く異なる原理に貫かれていると考えるべきでしょう。しかし私には、オリンピックを頂点とする現代のスポーツが、強い神話性を帯びているように思えてなりません。私たちは、競技を単なる身体運動や試合として受け止めているのではなく、そこに常人ならざる精神力や倫理観も期待しているからです。オリンピック憲章もまた、次のように謳っています。

オリंपイズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。(…)その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。

斜に構えた捉え方でしょうが、競技者は心技体の極致を社会に示す「見世物」であることを求められているとも解されます。実際、選手自身がしばしば口にする「感動を与えたい」とい

う抱負は、見られることを前提としています。オリンピックは、選手にも観覧者にも、普遍的かつ理想的な人間像を顕現させる神聖なる儀式として体験されるのです。

オリンピックが元来神々へ捧げる古代ギリシアの祭典であったことに鑑みると、それも不思議ではないでしょう。しかしながら第一回近代オリンピックが開催されたのは1896年、古代オリンピックの終結から実に1600年も後のことです。その間ヨーロッパでは、スポーツ全般が文化の表舞台から完全に消えていました。精神が人間の本質と考えるキリスト教的人間観においては、身体とその運動の持つ価値が否定されたからです。古代と近代のオリンピックの間には、深い断絶があるのです。

スポーツの意義が再び注目されるようになったのは、ようやく18世紀、啓蒙主義時代においてでした。とりわけ、人間の本質を自然に見るルソーの思想が強い影響を与えました。彼が『エミール』で提案した合自然的教育は、まもなく「汎愛学校」と呼ばれるドイツの学校で実践に移されたのですが、その一環として「体育」の授業が始まったのです。もっとも身体運動は、まだ一般的には肉体労働者か子供の所為として、むしろ教育の阻害要因と目されていました。そこでシュネップフェンタール汎愛学校で体育を指導していたグーツムーツは、身体活動に一心身の自然な発育というルソー的理念に加え一国家社会を担う逞しい市民の育成という大義名分を与え、その有用性と正当性を主張します。彼の著した世界初の体育教科書『青少年の体育』（1793）には、当時のドイツで行われた競技会の様子が、次のように記録されています。

9月24日、ここに、大部分の領民たちが押し寄せてきて、いわばオリンピック競技が復活する。なんとも晴れやかな光景だ。
(…) 地元の青少年はこの日を待ちこがれ、

この日のために前々から体を鍛えている。祖国への愛が高まる。祖国は、ただ彼らに勤労と臣従とを要求するのではなく、喜びも与えてくれるからだ。— 領主への愛も高まる。領主が善良な民を愛し、宮殿の中でも彼らを忘れていない証拠を、この一日が示すことになるからだ。

統治者たちよ、すべての人民を導き、彼らの愛を獲得するのに、この競技会は何と素晴らしい手段であることか。それは何と重要で、推奨に値することか— この革命の時代に。

強く朗らかで純朴な若者たちが、愛し愛される祖国のために心身を鍛えるという、ユートピア的な、しかし嫌な予感がする光景です。かつて鍛え上げられた心身を奉納したように、今度は健全な心身を領主と共同体に捧げています。しかもそれは、一すべての国民の徳業として描かれています。この壮健な若者たちと、後のヒトラーユーゲントの姿を重ねることは、いかにも短絡的でしょう。とはいえグーツムーツの提示した国民体育思想が、身体と社会をめぐるその後のイデオロギーと無関係であるとは言い切れないと思います。

オリンピックとスポーツに、三島は「明快さと光りの原理」を、バルトは「影のない光」を見えています。その強烈な光に幻惑されて影が見えなくなるのならば、酔いしれてばかりはいられません。オリンピックがあらゆる無理を押し通してしまえるのは、それが我々にとって神話のような圧倒的説得力を持つからです。スポーツがもたらす「屈折のない感動」を、近代ヨーロッパ発祥の体育教育思想がどのように利用してきたか、屈折した眼差しで再考する必要があるようです。

(たぐちたけふみ 会員、福岡大学人文学部教授)

ドイツ人のアイデンティティと「国民」の文学

須藤 秀平

私は近代ドイツ文学を専門とし、18-19世紀の著作の中で「folk Volk」という言葉がどのように使われたのかを研究しています。「folk」とは、多くは「民族」あるいは「民衆」を意味する言葉です。研究の中で見つけた興味深い事柄について、オンライン講義の第8回「ドイツ人のアイデンティティと「国民」の文学」として発表する機会をいただきました。その内容について報告します。

「ドイツ人」という意識

「民族」という考え方や「ドイツ人」という意識は、実はそれほど古いものではありません。よく知られているように、ドイツは国境を何度も変えてきた国です。戦後の東西分裂はもちろん、二度の世界大戦や、それを用意した帝国主義時代の領土拡大によっても、ドイツの国境線は絶えず変化してきました。「大ドイツ主義」「小ドイツ主義」という言葉があるように、そもそも19世紀にはドイツは帝国として「統一」しなければならない、ばらばらの国だったので

す。ドイツ最初の国家統一はビスマルクが主導した1871年のドイツ帝国であるとして、自らが「ドイツ人」であるという意識はいつ生まれたのでしょうか。帝国統一の100年ほど前には、「ドイツ人」ではなく「シュヴァーベン人、ザクセン人、バイエルン人」といった区分が用いられていました。現在では「ドイツ人」として同じ国籍を持つはずの人々が、このときはまだ「外国人」同土だったわけです。

ゲーテと同時代に活躍したC・M・ヴィーラントは、1793年に「ドイツ愛国主義」が流行し

ていることを認めつつ、自分の子供時代には「ドイツ」への愛国心というものは存在しなかったと述懐しています。この1793年には、ドイツは隣国フランスとの戦争の真っ最中でした。1789年に革命を起こしたフランスの新勢力は、自由や平等の理想を掲げ、旧態依然のオーストリアに対し1792年4月に宣戦布告。これにプロイセンをはじめとした各国が参戦し、ヨーロッパ中を巻き込んだ革命戦争が始まります。同年9月、ヴァルミーの戦いでオーストリア・プロイセン連合軍がフランス革命軍に大敗を喫すると、「ドイツ」という祖国が危機にあるという意識が人々のあいだに広がったとされています。ヴィーラントはちょうどこの転換期に立ち会ったと言えます。

対ナポレオン戦争と「ヘルマンの戦い」

この独仏の戦争は、フランスでナポレオンが政権を掌握して以降、より激化することとなります。特に1806年、ナポレオンがライン同盟の締結によってドイツの国々の大半を従属させると、人々の危機意識はいよいよ高まり、「ドイツ国民」というまとまりを目指す動きが本格化します。プロイセン改革を導いた政治家フライヘル・フォン・シュタインは、「私は唯一の祖国しか持っていない。それはドイツという祖国だ」と述べました。

こうした中で、全ドイツ人による国民戦争を鼓舞したとされる人物として、劇作家のハインリヒ・フォン・クライスト(1777-1811)がいます。クライストもまた『ドイツ人の教理問答』という文書の中で、領邦ではなく「ドイツ」を祖国とする愛国心を説いています。そんな彼は

1808年に戯曲『ヘルマンの戦い』を執筆し、早急の上演を求めました。ヘルマンとは、古代ローマ人による支配を打ち破ったゲルマン人の英雄で、ナポレオン戦争期にはフランス人と戦うドイツ人の象徴としてしばしば取り上げられました。クライスト自身、手紙の中で「僕たちはローマのくびきをはめられたあの諸民族だ」と書いており、その点でも彼が対仏戦争を支持していたことは間違いありません。

「国民」の不確かさ、文学の面白さ

しかし、クライストの著作を丹念に読み解いていくと、いくつか不可解な点に行き当たります。例えば、当然想定されるはずの民族主義的な考え方を、クライストはむしろ避けていたようなのです。哲学者フィヒテや「体操の父」ヤーンといった同時代の思想家は、祖国防衛のために「ドイツ人」をよくも悪くも「民族」として特徴づけ、そうした見方を広めようとしてきました。それに対しクライストは、文化的な集団を偶然的な産物として冷ややかに見ます。それどころか『ヘルマンの戦い』では、「嘘偽り」によって敵を窮地に陥れる卑劣な主人公の姿が描かれ、「誠実なドイツ人」というイメージが覆されます。戦争を鼓舞するはずの戯曲であるにもかかわらず、人々の憧れの的となるような英雄の姿をクライストは描かなかったのです。

そんなクライストが「フォルク」という言葉で表現したのは、文化や精神性を共有する「民族」ではなく、情動で動く突発的な「群衆」でした。『ヘルマンの戦い』の中で、主人公ヘルマンは、ローマ人に対する憎悪を煽ることでゲルマニアの人々を同じ方向に導こうとします。人々はそれに応え、ゲルマン人が一丸となった国民戦争が果たされます。しかし、敵意で一時的



的に団結した人々の行動は、徐々にヘルマンの手を離れていきます。『ヘルマンの戦い』は、こうした「国民」の不確かさをも描いた文学なのです。

戯曲の執筆にあたってクライストが何をどこまで意図していたのか、本当のところは誰にもわかりません。いずれにせよ、それまでの時代にはなかった「ドイツ国民」というものに、クライストは一方では期待を寄せ、その団結を願いました。しかし他方でその鋭敏な感受性は、「国民」というものの内実がいかに不確かで脆弱なものかということをも図らずも捉えてしまっていたのです。むしろこうしたいびつな側面こそが、文学といういくぶん曖昧な営為の面白いところであると思います。

(すとう しゅうへい 会員、福岡大学人文学部講師)



◆会員より

高柳 英子

名誉会員でおられた大河内ロスヴィータさんが3月25日にご逝去のこと。私が当協会に入会したのが40年以上前なので、そのころすでにいらしたかどうかちょっと記憶にありません。

この後、理事のロスヴィータ先生がクリスマス会やドイツの映画の会などでご活躍されていたころは、いつもお手伝いさせていただき、九大の外国人講師のお住まいであった川沿いの西洋館を訪問したり、ご一緒したころの楽しい思い出がつきません。

オクトーバーフェストのためにいただいた先生のお若いころの民族衣装は私の大切な形見の品となりました。

ご冥福お祈りします。 Vielen Dank für alles!

(たかやなぎ えいこ)

◆新入会員自己紹介

東雲 由実

福岡市内でピアノ講師をしています。

高校卒業後、ドイツはベルリンに留学し、4年間音楽とドイツ語を勉強してきました。後半、2年間はハンブルグで過ごしました。ドイツが大好きで、日本で仕事をしていてもドイツとの関わりを続けていきたいと思い、入会しました。ドイツ語も忘れないようにドイツ語講座を受けたりして、頑張りたいと思います。宜しくお願い申し上げます。

(しのめゆみ)



RESTAURANT
ZUR STADT MAINZ

シュタットマインツ
TEL. 070-8385-0774
福岡県福岡市中央区白金1-15-7ダイアパレス白金1F
【営業時間】
11:00 ~ 23:00
※火曜日のみ／ランチ休み、17:00～営業
☞定休日＝不定休☞

ゆったり空間で
ドイツの美味を堪能 ...
素材にこだわった
Deutsches Essen



ドイツビール、こだわりの厳選素材や料理を取り揃え、
皆様のお越しを、心よりお待ちしております。

● 事務局報告

I. 2020年度会員動向

- (1) 2020 年度入会個人会員 1 名
- (2) 2020 年度退会個人会員 11 名 (内 1 名物故者)
- (3) 2020 年度末在籍会員
 - 名誉会員：5 名
 - 法人会員：4 法人
 - 個人会員：127 名 (一般 82 名、家族 5 名、青年 25 名、学生 7 名、法人指名 8 名)

II. 2020年度活動報告

1. 諸会議

- (1) 2020 年度定期総会
 - 2020 年度定期総会 2020 年 4 月 5 日 (日) ~ 12 日 (日) メール会議、議案書通り可決
- (2) 理事会
 - 第 1 回理事会 2021 年 2 月 19 日 ~ 2 月 27 日 メール会議
 - 決議：2021 年度定期総会 (本会) 議案について

2. 2020年度例会等の諸行事報告

- 2020 年 4 月 12 日 (日) 総会+卓話：中止 (2020 年 4 月 5 日 (日) ~ 12 日 (日) メール会議に移行)
- 2020 年 6 月 13 日 (土) 「ドイツ語スピーチコンテスト」+例会 (福岡大学)：中止
 - [予定では、講演：佐藤慶治 (鹿児島女子短期大学児童教育学科専任講師・バリトン歌手)、題名：翻訳唱歌と国民形成 (仮題)、企画：企画委員会]
- 2020 年 8 月 22 日 (土) 例会「暑気払い」(キリンビール福岡工場)：中止
 - [予定では、15:00-16:00：例会講演、場所：工場併設のキリンビアファーム 貸切スペース 収容人員 36 名、講演者：キリンビール福岡工場副工場長 黒杭隆政氏、演題：未定 (ドイツのビールとマイスター制度 など)、16:00 ~ 18:30：ビアパーティ 講演後引き続き 同じ部屋で、会費 4000 円 (未確定) 飲み放題、企画：企画委員会]
- 2020 年 10 月 24 日 (土) 例会+懇親会 (KKR)：中止
 - [予定では、講演：須藤秀平 (会員)、題名：フォルクとネーション (仮題)、企画：企画委員会]
- 2020 年 12 月 12 日 (土)、19 日 (土)、26 日 (土) 西日本日独協会特別企画 (各回 12 ~ 16 名の参加) 会員による会員のためのオンライン講義：チーム「ドイツ」の最前線 (会員ならびにドイツ語講座受講者限定の講義)、企画立案：企画委員会委員長 小黒康正
- 第 1 回講義 12 月 12 日 (土) 17 時から 18 時まで
 - 講師：小黒康正 (九州大学)
 - ゲーテの詩「漁夫」をめぐる新しい音楽観 「算術の水たまり」から「自然の泉」へ

■第2回講義 12月19日(土) 17時から18時まで

講師：今井宏昌(九州大学)

戦間期ドイツ義勇軍文学と「男らしさ」『志願兵シュテンボック』をめぐって

■第3回講義 12月26日(土) 17時から18時まで

講師：福元圭太(九州大学)

魂の測り方－自然科学の向こう側

2020年12月17日(木) 例会「クリスマス会」(KKR)：中止

2021年2月27日(土) 例会+懇親会(パピヨン24)：中止

[予定では、講演：石川謙介(九州医療センター精神科部長)、題名：ミュンヘン工科大学滞在記(仮題)、企画：企画委員会]

3. 委員会活動

(1) 年報44号発行 2020年12月4日

(2) ドイツ語教室

春期：受講者 43名

秋期：受講者 40名

(3) 2020年度ユース委員会活動報告

◆オンライン日独交流プログラム『JG-Connect』 2020年9月27日(日) 14:00～20:45

オンラインにて、「ベルリンバーチャル散歩」などのコンテンツやさまざまな日独文化の理解、参加者同士が交流意見交換できるコンテンツを時間割で区切り複数開催しました。イベント開催を、西日本日独協会の青年メンバーにメールにてご案内。福岡からはメンバー1名と緒方がオンラインにて参加。

◆JG-Youth 定例会議

月に一度、ZOOMを用いてオンライン会議を行いました。

◆JG-Youth 会議 in 大阪 2020年10月17日(土)～18日(日)

東京、大阪、群馬を中心とした役員7名が参加。

場所：DZGO(ディーズゴー) ドイツ語教室：今後の活動計画、意見交換会を行いました。

※マスク着用、ソーシャルディスタンス、換気、消毒を十分に行った上で開催しました。

4. 後援

特になし

5. 協力

特になし

6. その他

事務局のパソコンの更新について

- ・Windows10のパソコン並びにプリンタを新規に購入した。

Ⅲ. 2020年度協会収支決算報告、留学生基金収支決算報告および会計監査報告 — 2020年4月1日～2021年3月31日 —

1. 2020年度協会会計収支決算

(1) 【収入】（金額単位：円）

費目	項目	予算	決算	増減 (決算－予算)
前年度繰越金		1,280,796	1,280,796	0
運営費	個人会員	660,000	457,500	-202,500
	法人会員	100,000	176,000	76,000
	年報広告費	110,000	35,000	-75,000
	寄付	0	0	0
	雑収入	846	17	-829
	運営費計	870,846	668,517	-202,329
活動費	例会等行事	1,100,000	0	-1,100,000
事業費 (ドイツ語教室)	今期前受金	766,780	766,780	0
	春期受講料	173,220	65,160	-108,060
	秋期受講料	900,000	798,520	-101,480
	次年度前受金	700,000	698,060	-1,940
	事業費計	2,540,000	2,328,520	-211,480
合計		5,791,642	4,277,833	-1,513,809

(2) 【支出】

費目	項目	予算	決算	増減 (決算－予算)
運営費	事務所家賃	240,000	240,000	0
	光熱・水道費	60,000	49,438	10,562
	電話代	90,000	82,899	7,101
	インターネット	5,000	5,148	-148
	人件費	300,000	230,000	70,000
	事務経費	40,000	7,129	32,871
	通信・印刷費	70,000	66,835	3,165
	会議費	0	0	0
	渉外費	30,000	30,490	-490
	旅費交通費	30,000	0	30,000
	ユース活動支援費	30,000	23,200	6,800
	年報発行費	200,000	157,300	42,700
	雑費	10,000	2,585	7,415
	予備費	100,000	111,297	-11,297
運営費計	1,205,000	1,006,321	198,679	
活動費	例会等行事	1,100,000	0	1,100,000
事業費 (ドイツ語教室)	春期教室経費	800,000	639,920	160,080
	秋期教室経費	800,000	660,976	139,024
	事業費計	1,600,000	1,300,896	299,104
合計		3,905,000	2,307,217	1,597,783

【決算（総括）】（単位：円）

	収入	支出	差額	
繰越金	1,280,796	0	1,280,796	
運営費	668,517	1,006,321	-337,804	
活動費	0	0	0	
事業費	2,328,520	1,300,896	1,027,624	
合計	4,277,833	2,307,217	1,970,616	繰越金 1,970,616

注：この繰越金の中には、ドイツ語教室の次年度春期受講料前受金(698,060円)が含まれる。

(3) 2020年度 留学生基金 収支 — 2020年4月1日～2021年3月31日 —

2020年度は12月例会（クリスマス会）が開催されなかったため、留学生招待のための出費（支出）と、会場での募金（収入）がなく、留学生基金に動きはありませんでした。現状に関してはしたがって、年報第44号30頁上段のままであることをご報告いたします。

2020年度西日本日独協会会計および留学生基金監査報告書

西日本日独協会
会長 岡嶋 泰一郎 殿

2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）の西日本日独協会会計および留学生基金について、諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係資料に基づき監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であることを報告します。

2021年4月9日
監事 藤野 成爾 印

IV. 2021年度活動計画

1. 諸会議

- (1) 総会 2021年度定期総会 2021年4月18日（日）～25日（日）メール会議
- (2) 理事会 必要時に随時招集 協会事務所または例会会場にて
- (3) 全国日独協会連合会総会 詳細未定
- (4) 日独ユースネットワーク総会 詳細未定

2. 例会等の行事

例会・クリスマス会等が実施可能な状況になり次第、計画を立ち上げる。オンラインの催しは、今後とも計画する予定

3. 委員会活動および事務局

- (1) 年報編集 2021.6.以降 年報第45号編集の予定
個人広告の復活 ⅓頁 3,000円 ⅓頁 5,000円
- (2) ドイツ語教室
講師：児島裕哲、本田和親（協会事務所）、
シュトロートホフ・マーティン（オンライン授業）
（予定：受講者の動向によってクラスの閉講もありうる）
2021年度春期 2021.3.31～2021.7.16 2021年度秋期 月日未定
- (3) 事務局局員の勤務：原則として金曜日12時～15時とし、繁忙月（3、4、9月等）は状況に応じ火曜日にも勤務する。事務局宛メールは同時に事務局員宅にも着信する。

4. 共催・後援・支援

(1) 後援

2021.6 (予定) 第?回ドイツ語スピーチコンテスト九州 主催: 在福3大学有志

2021. 9.20 (予定) カンタータプロジェクト 2021 (会員: 小沼和夫氏が企画するバッハのカンタータ演奏会・「あいれふ」ホール)

V. 2021年度協会会計収支予算

— 2021年4月1日～2022年3月31日 —

1. 【収入】(金額単位: 円)

費目	項目	前年度		2021年度	
		予算	決算	予算	前年予算比
前年度繰越金		1,280,796	1,280,796	1,272,556	-8,240
運営費	個人会員	660,000	457,500	430,000	-230,000
	法人会員	100,000	176,000	100,000	0
	年報広告費	110,000	35,000	100,000	-10,000
	寄付	0	0	0	0
	雑収入	846	17	44	-802
	運営費計	870,846	668,517	630,044	-240,802
活動費	例会等行事	1,100,000	0	500,000	-600,000
事業費 (ドイツ語教室)	今期前受金	766,780	766,780	698,060	-68,720
	春期受講料	173,220	65,160	49,340	-123,880
	秋期受講料	900,000	798,520	700,000	-200,000
	次年度前受金	700,000	698,060	600,000	-100,000
	事業費計	2,540,000	2,328,520	2,047,400	-492,600
合計		5,791,642	4,277,833	4,450,000	-1,341,642

2. 【支出】(金額単位: 円)

費目	項目	前年度		2021年度	
		予算	決算	予算	前年予算比
運営費	事務所家賃	240,000	240,000	240,000	0
	光熱・水道費	60,000	49,438	60,000	0
	電話代	90,000	82,899	90,000	0
	インターネット	5,000	5,148	10,000	5,000
	人件費	300,000	230,000	300,000	0
	事務経費	40,000	7,129	40,000	0
	通信・印刷費	70,000	66,835	70,000	0
	会議費	0	0	0	0
	渉外費	30,000	30,490	30,000	0
	旅費交通費	30,000	0	30,000	0
	ユース活動支援費	30,000	23,200	20,000	-10,000
	年報発行費	200,000	157,300	180,000	-20,000
	雑費	10,000	2,585	10,000	0
	予備費	10,000	111,297	50,000	40,000
	運営費計	1,115,000	1,006,321	1,130,000	15,000
活動費	例会等行事	1,100,000	0	500,000	-600,000
事業費 (ドイツ語教室)	春期教室経費	800,000	639,920	700,000	-100,000
	秋期教室経費	800,000	660,976	700,000	-100,000
	事業費計	1,600,000	1,300,896	1,400,000	-200,000
合計		3,815,000	2,307,217	3,030,000	-785,000

【予算（総括）】（単位：円）

	収 入	支 出	差 額
繰越金	1,272,556	0	1,272,556
運営費	630,044	1,130,000	-499,956
活動費	500,000	500,000	0
事業費	2,047,400	1,400,000	647,400
合 計	4,450,000	3,030,000	1,420,000

繰越金 1,420,000

注：この繰越金の中には、ドイツ語教室の次年度春期受講料前受金(600,000円)が含まれる。

西日本日独協会ドイツ語教室ご案内

和やかな雰囲気，身につくドイツ語！

非会員の方にもぜひお勧めください。

レベル（CEFR：欧州共通参照枠）に合わせた7クラスを開講。

ネイティブ講師担当（2021年度オンラインで実施）

- ・ A1（入門）：木曜日18:45-20:15
- ・ A2（基礎）：木曜日20:15-21:45
- ・ B1（初級）：水曜日18:45-20:15
- ・ B2（中級）：水曜日20:15-21:45
- ・ C1（上級）：金曜日20:15-21:45

受講料（別途教科書代がかかります。）

春・秋学期開講：会員・学生19,000円，一般21,000円

（2021年11月から秋学期授業後半のみ受講の場合：

会員・学生9,500円，一般10,500円）

詳しくは教室ウェブサイトをご覧ください。



日本人講師による「初歩」，「基礎総合」クラスも！

同人誌・会報・機関誌、
小説集、歌集、句集、自分史などの
自費出版物を編集発行します。

花書院
図書出版

〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9番2号
TEL.092-526-0287 FAX.092-524-4411

城島印刷株式会社 〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9番6号
TEL.092-531-7102 FAX.092-524-4411

言
花

もはや「言葉」では満足できない。

小さくても雄々しく咲いていくものを。

実をなす季節を窺っているものを。

一握みの文章。一握りの作家。

毒があってもいい。甘い蜜ならなおのこと。

言花をもじ本が、一冊でも多く陽を集めるように。

人々に、色と薫りを運ぶように。

いま、この種を蒔く。

● 2021年度役員等名簿

(敬称略)

1. 名誉職

顧問 池田紘一 九州大学名誉教授

2. 役員

会長 岡嶋泰一郎 国立病院機構小倉医療センター名誉院長、社会保険仲原病院顧問

副会長 小黒康正 九州大学大学院人文科学研究院教授

高崎隆一 (株)西日本マネジメント開発代表取締役

宮崎亮 公益社団法人福岡医療団千鳥橋病院 外科医

事務局長 福元圭太 九州大学大学院人文科学研究院教授

理事 荒木啓子、緒方愛実、加藤元也、ゴツィック・マーレン、堺雅志、佐田正之、田口武史、藤真理、中村直樹、船津邦比古、ホルスト・スウェン、御手洗淳、村上康子、葉照子

監事 藤野成爾

3. 委員会 (委員長○印、および委員)

企画委員会 ○小黒康正、荒木啓子、岡嶋美佐子、加藤元也、松野正邦、村上康子、山崎勝幸、葉照子

年報編集委員会 ○田口武史、富重純子、藤真理、中村直樹、池田奈央

ドイツ語教室委員会 ○堺雅志、児島裕哲、シュトロートホフ・マーティン、平松智久、本田和親

日独ユース委員会 ○緒方愛実、ゴツィック・マーレン、田野武夫、平松智久、森光一郎

4. 事務局

福元圭太 (事務局長)、中村直樹 (Web-master)、喜多村由布子 (事務局員)

● 西日本日独協会会則

〈名称及び事務局〉

第1条 本会は、西日本日独協会と称する。

第2条 本会の事務局を福岡市に置く。

〈目 的〉

第3条 本会は日独両国間の学術・経済・文化面の交流を助長し、あわせて両国民の親善を図ることを目的とする。

〈事 業〉

第4条 本会の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 例会の開催（ドイツあるいは日独交流の紹介、会員の親睦など）
2. ドイツ語教室の運営
3. 両国学生交流の支援
4. 年報の発行
5. 目的に沿う催事の主催・共催・後援

〈会 員〉

第5条 本会の会員は名誉会員、法人会員、個人会員、青年（40歳未満）会員、家族会員、学生会員とする。

1. 名誉会員、法人会員は理事会の同意を得て会長が決定する。
2. 個人会員、青年会員、家族会員、学生会員は会員の推薦により理事会で確認する。
3. 法人会員に所属する者2名以下を個人会員（会費無料）登録することができる。

〈役員および顧問〉

第6条 本会に次の役員・名誉会長・顧問をおく。

1. 会長1名、副会長3名以内、事務局長1名、理事若干名、監事2名
2. 役員は理事会で推薦し、総会の承認を得る。任期は2年、再任可とする。
3. 会長、副会長、事務局長は理事の互選とする。
4. 理事会の推薦により、会長は名誉会長、顧問を委嘱することができる。

〈委 員 会〉

第7条 本会は下記の委員会ほか、必要に応じて委員会を設け、委員長を理事の中から選ぶ。

1. 企画委員会、ドイツ語教室委員会、年報編集委員会、日独ユース委員会
2. 委員長は、理事及び会員の中から委員を選ぶことができる。

〈会 議〉

第8条 本会の会議は、総会、理事会とする。議事は出席者の過半数をもって決定する。

1. 総会は年1回以上会長が招集する。総会に付議する事項は以下の通り。
①活動計画、報告 ②予算、決算 ③役員承認 ④会則変更 ⑤他重要事項
2. 理事会は会長が必要に応じて招集し議長となる。付議事項は以下の通り。
①活動状況 ②財務状況 ③総会付議事項 ④役員の推薦 ⑤他重要事項

〈会 計〉

第9条

1. 本会の会計は、会費、事業（ドイツ語教室）などの収入をもって充てる。
2. 年会費は法人会員1口20,000円以上任意、個人会員6,000円、青年会員4,000円、家族会員3,000円、学生会員1,000円とする。
3. 会費を2年間滞納した場合は退会と見なす。
4. 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとし、期末には監事の監査を受ける。
5. 事務局スタッフを有給とすることができる。

〈付 則〉

第10条

1. 本会則上の疑義が生じた場合は、理事会で対応し、事後、総会で承認を得る。
 2. この会則は2019年4月21日から発効する。
- 注：2018年4月20日以前に入会の青年会員には入会当時の会費規則を適用する。

● 会員名簿

(2020年度末現在) 敬称略

1. 名誉会員：5名

Dr. Gross, Helmut Haimer, Heyo E. Hofmann, Klaus R.
Dr. Knof, Wolfgang Dr. Stickel, Gerhard

2. 法人会員：4法人

城島印刷(株)、西部ガス(株)、南州農場(株)、篠原公認会計士事務所グループ

3. 個人会員：127名 ○印は2020年度新入会員

明石英俊、麻生誠、荒木啓子、有吉千佳、井口アーデルハイト、池田紘一、池田園子、池田奈央、石村善治、井口哲也、板部忠佑、今井宏昌、梅野健、白井和実、江口舞、大久保里香、大澤遼可、岡嶋泰一郎、岡嶋美佐子、緒方愛実、奥山若菜、小黒康正、落合桃子、折登美紀、尾張充典、垣本知子、萱野通子、加藤元也、加藤道子、カスパリ・エルネスト＝ゲオルク、カスパリ佳代、川上達也、川口史、北芝幹恰、喜多村由布子、桑原康子、剣持邦彦、神代正臣、古賀浩一、古賀淳子、古賀友子、児島裕哲、ゴツィック・マーレン、小沼和夫、小林武治郎、小松和子、三枝保子、堺雅志、坂本隼人、佐田正之、佐藤秀美、○東雲由実、清水真弓、シュトロートホフ・マーティン、シュヴァイツァー・アントン、白土浩司、實原隆志、篠原俊、須藤秀平、瀬戸泰生、高崎隆一、高田淑、高木康裕、高柳英子、多田裕子、立花雅子、楯岡和子、田野武夫、瀧下真由美、武田利勝、竹下亜希子、田口武史、谷口博文、種子田実希、垂門剛、土井美弥子、土井章斗、土井和重、藤真理、富重純子、中里公哉、長澤和賀子、永野秀子、中村和子、中村直樹、永元康夫、南州マイスターヴェルク店長、二本木一哉、畠田美智代、橋本佳奈、橋爪晴美、廣田義幸、平野智香、平松智久、東原正明、福嶋まみ、福元圭太、藤野成爾、船津邦比古、二又美穂子、ホルスト・スウェン、ホルスト陽子、本田和親、松本浩二郎、御手洗淳、御手洗史子、南優美、宮崎亮、ミヒェル・ヴォルフガング、宮村紀久子、村上康子、村上浩明、諸岡須賀子、森光一郎、森永誠之、安川洋、山崎勝幸、山本明子、山本成宏、葉照子、横川洋、横川寛、ライヒャルト・アンドレ、脇崇晴、分山邦子、渡邊秀水、渡部正和、渡邊裕一

なお2021年9月末時点では、次の2名が新規入会なさっています。

イビツァ・タスコビッチ (一般会員)、吉富惟亮 (青年会員)

2020年度中の物故会員：田中優次、大河内 Roswitha

田中優次様、大河内 Roswitha 様 謹んでご冥福をお祈りします。

編集後記

年報第45号をお届けいたします。長引くコロナ禍のため、依然として例会を開催できる状況になく、まことに寂しいかぎりです。年報編集作業も難航しましたが、ご寄稿とお便り3点、および「会員による会員のためのオンライン講義」をご提供いただいた方々からの6本の報告記事で、どうにか発行にこぎつけた次第です。原稿をお寄せいただいた皆様に、あらためて感謝申し上げます。また、広告をお寄せいただきました各社のご厚意に、心よりお礼申し上げます。

「会員による会員のためのオンライン講義」は、企画委員長の小黒先生のイニシアチブにより、これまで（2021年8月末時点）8回実施されました。例会における卓話を代替するものでありますが、会員のみならず、バイエルン独日協会の方々やドイツ語を学ぶ学生さんたちにもご参加いただくことができ、まさにオンラインならではの可能性を感じました。時代に流されることなく、しかし時代を味方に付けて、柔軟な姿勢でこの困難を乗り切りたいところです。

目下の状況から、次号の年報もまだ、例年とおりの内容とはゆかないことが予想されます。この間に皆様がお考えになったこと、読んだり見たり聞いたりしたこと、ドイツにまつわる思い出話など、ぜひお気軽にご投稿ください。アナログなコミュニケーション手段だからこそ伝わるものがあると思います。

末筆ではございますが、再びお会いできる日まで皆様がお元気で、おだやかな毎日を過ごされますよう祈念いたします。

2020年度 年報編集委員会委員長 田口武史
(委員 藤真理、富重純子、中村直樹、池田奈央)

西日本日独協会年報 第45号 (2021)

Jahresbericht 45 der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Westjapan 2021

発行 令和3(2021)年10月20日
発行者 西日本日独協会会長 岡嶋泰一郎
編集 西日本日独協会年報編集委員会
発行所 **西日本日独協会**
〒810-0012 福岡市中央区白金2-9-6 城島印刷株式会社 気付
Japanisch-Deutsche Gesellschaft Westjapan, Fukuoka
Präsident : Dr. Taiichiro Okajima
Büro : c/o Kijima-Insatsu, 2-9-6 Shirogane Chuo-ku,
Fukuoka 810-0012, Japan
Tel/Fax : 092-524-0059
E-mail : info@jdg-nishinihon.org URL : <https://jdg-nishinihon.org>
郵便振替 口座番号 : 01720-3-23959 名義人 : 西日本日独協会
福岡銀行 屋形原支店 普通預金 口座番号 : 1194549
名義人 : 西日本日独協会会長 岡嶋泰一郎

印刷 城島印刷株式会社
〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9-6
Tel 092-531-7102(代) Fax 092-524-4411